

若手研究者支援 2 次募集 国際学会発表	
Development of Asymmetric Organocatalysts with Aromatic ( <i>cis, cis</i> )- <i>N,N</i> <sup>2</sup> -Dialkylurea as A Flexible Chiral Backbone	
氏名 武田 史	所属 理学専攻 化学・生物化学領域
期間	2025 年 12 月 15 日 ~ 2025 年 12 月 20 日
学会名	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025
場所・施設	ホノルル (ハワイ)、Hawaii Convention Center 等
発表者名・発表形式	Fumi Takeda, ポスター発表

## 内容報告

### 1. 本発表の概要

The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (以下 Pacificchem2025) にて、「芳香族(*cis, cis*)-*N,N*<sup>2</sup>-ジアルキルウレアを柔軟な不斉骨格とした不斉有機触媒の開発」に関するポスター発表を行った。本学会では、合成した新規の芳香族(*cis, cis*)-*N,N*<sup>2</sup>-ジアルキルウレア誘導体について、固体中および溶液中における立体構造の解析結果と、アザヘンリー反応において不斉有機触媒として使用したときの特徴的な触媒機能を発表した。Pacificchem2025 は化学の中でも多様な分野の研究者と出会うことができる貴重な機会であり、専門的な学会では会うことのできない国内外の研究者から幅広い意見を得ることを目的とした。また、申請者にとって初めての海外での国際学会であり、英語でのプレゼンテーション力やコミュニケーション力を身につけることを目的とした。

### 2. 発表した学会の当該分野での位置づけ

Pacificchem2025 は、環太平洋地域に属する国の化学会が交代で主催し、5 年に一度開催される国際学会である。有機化学、材料化学、環境化学など、化学に関する全ての分野について発表が行われる。分野の垣根を超えて、学生や若手研究者、専門家が議論できる場の構築を目的としている。

### 3. 得られた成果と今後の展望

本発表では、これまで参加してきた学会とは異なり、実験結果そのものだけでなく測定条件や解析手法の妥当性など、方法論に踏み込んだ質問を多く受けた。その経験から、学会の分野や参加者層に応じて想定問答を準備する重要性を実感した。また、英語での説明および質疑応答が概ね円滑に行えたことは自信につながった一方で、細かな質問を聞き取れない場面もあり、リスニング力の向上が今後の課題として明確になった。さらに、多様な国の女性研究者の発表に触れる機会を得たが、その数は依然として男性研究者と比較して少なく、継続的に女性研究者を育成・輩出していくことの重要性を実感した。

今回発表した研究内容は、博士論文の一部として執筆する。さらに、CSJ (The Chemical Society of Japan)や ACS (The American Chemical Society)が出版する国際的な学術誌に論文を投稿する予定である。

たけだ ふみ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻

・英文タイトル : Development of Asymmetric Organocatalysts with Aromatic (*cis, cis*)-*N,N*<sup>2</sup>-Dialkylurea as A Flexible Chiral Backbone

・英文氏名 : Fumi Takeda